

第1回茨城県リスクリング推進協議会

1. 開催日時：令和5年1月30日（月）15:00～16:00
2. 開催場所：茨城県庁 5F 庁議室
3. 出席者：会長 大井川和彦 茨城県 知事
委員 笹島 律夫 一般社団法人茨城県経営者協会 会長
阿部 真也 茨城県中小企業団体中央会 会長
内藤 学 茨城県商工会議所連合会 会長
朝比奈典功(代理) 茨城県商工会連合会 事務局長
内山 裕 日本労働組合総連合会 茨城県連合会 会長
中村 麻子(代理) 国立大学法人茨城大学 学長特別補佐(社会連携担当)
加藤 光保(代理) 国立大学法人筑波大学 副学長・理事(教育担当)
申 美花(代理) 茨城キリスト教大学 経営学部長
川崎 篤之(代理) 学校法人グロービス経営大学院
ディレクター 茨城・水戸特設キャンパスリーダー
難波 浩美(代理) 一般社団法人茨城県専修学校各種学校連合会事務局長
オブザーバー 五十嵐 悟 経済産業省 関東経済産業局地域経済部長
下角 圭司 厚生労働省 茨城労働局長
4. 議題：(1)茨城県リスクリング推進協議会について (別添資料1-1、1-2)
(2)リスクリングに係る取組状況について
・茨城県のリスクリングに係る取組状況<県> (別添資料2-1)
・IT コーディネータ茨城との連携<一般社団法人茨城県経営者協会>
(別添資料2-2)
・<学校法人グロービス経営大学院> ※パンフレットのため未掲載
(3)今後の取組方針について (別添資料3)
(4)意見交換

開会挨拶（大井川知事）

○しっかりと賃金を上昇させながら経済を活性化させていくことが、国家にとっても茨城県としても大きな課題で、新しい技術に対応できる労働力、急速な変化に対応できる力を育てていく必要がある。

○リスクリングを推進して企業が必要とする人材をしっかりと育て、成長産業への産業構造の転換、あるいは成長産業への労働移動を円滑に進めていくことが喫緊の課題である。

○協議会の議論を踏まえながら、県としてリスクリングの取組を推進してまいりたい。

議事 (1)茨城県リスクリング推進協議会について

※県(事務局)から、資料を基に説明

(2)リスクリングに係る取組状況について

・ 県

-
- ・一般社団法人茨城県経営者協会
 - ・学校法人グロービス経営大学院

※それぞれ、資料を基に説明

(3)今後の取組方針について

○検討事項

- ・将来の成長産業、分野で必要となるスキルの可視化
- ・リスクリングに意欲的な企業人を後押しする仕組みづくり
- ・県全体でリスクリングを推進するための環境整備

○検討体制

- ・協議会のもとに、実務的な協議を行う「幹事会」、デジタルスキルを議論する「IT人材ワーキング会議」を設置

※県(事務局)から、資料を基に説明

議事 (4)意見交換 <委員の主な意見>

○労働時間の関係から、今の仕事から新しい仕事へと踏み出すきっかけ作りが中々ない。

○企業人教育といっても幅が広く、どこから手を付けて良いかが分からない。社員の興味があるものに対して、メニュー一覧のように情報を提供する場があると良い。

○リスクリングと言われることは、これまでも我々がやってきたことである。

○コンピュータの進展やコロナ禍を経て、生き抜いていくには、責任をもってリスクリングを進める必要がある。

○中小企業を中心にアンケートを実施したところ、リスクリングに取り組んでいる、および今後取り組みたいという会社が90%以上と高い関心を示している。

○関心が高いのは主に3点。販路開拓やプレゼン能力の向上としてのコミュニケーションスキル、ITやDXに関連する生産性向上スキル、そしてマーケティングに関連するマネジメントスキルである。

○若い社員は、リスクリングを通じて、この会社で自分がどのように成長できるかに関心を持っている。

○現在、人材の奪い合いが起きていて、選ばれる会社はリスクリングの機会があり、それをバックアップする体制も整っている。会社としては、社員の頑張り(リスクリング)を推進し、それを

きちんと評価するような、お互いに一連の連動性がないと進んでいかない。

○小規模事業者を対象に相談を受けているが、IT や DX に関しては、中々相談や意見交換ができないので、この協議会で専門家と連携することができるのは重要である。

○非連続性の時代と言われているが、今までの連続を維持するような産業の形態では、この先やっつけいけない。新しいものにチャレンジするために、こういったスキルが企業や社会の中で必要とされているかを皆で一緒に考えていかなければならない。

○リスクリングという言葉だけではなく、誰が、何のために、何をゴールとして、何を学ぶのかということを通意識として持たなければいけない。

○人間としての好奇心のための学びとして、本当に産業に、茨城県に資するような、人的資本に貢献ができるようなリスクリングプログラムと一緒に考えていきたい。

○学校側から、どのような教育を提供できるかを十分に議論していきたい。

○学ぶ人の目的に応じた教育でなければ、その人の希望に応えられないので、中々難しい。

○企業の様々なニーズを実感し役割分担しながら、本プロジェクト推進の原動力になりたい。

○この 30 年間で日本は稼ぐ力がなくなり、他国との競争力に負けたと言われるのは、色々と原因はあるが、やはり IT に少し遅れたことが非常に大きな原因だと考えられる。

○現在、大学でも IT の教員が不足している。これもリスクリングに対しては悪循環である。上手く外国人を活用できるようになれば良いと考える。

【知事まとめ】

○大学や企業においても、リスクリングに取り組んでいるが、あと一押しすれば、さらに前に進むことができる。県としては、より生産性の高いビジネス、仕事にシフトしていけるよう、人材育成（リスクリング）と言う側面からバックアップしていきたい。

○生産性を上げるためには、もう少し労働力の流動性が必要であり、産業構造のダイナミックなシフトも合わせて考えていくことが重要である。
